

初代津山藩主・森忠政

**市長** 津山というまちには、400年前に森忠政によって造られたまちです。築城だけでなく、城下町の整備や治水工事などにも力を入れて造られているということを知りたければなりません。津山のまちの基礎を造った人物として尊敬しなければならぬと思っています。

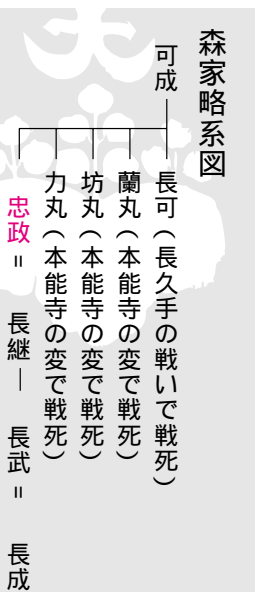
いつも「森蘭丸の弟」という説明がないと分かってもらえませんが、この機会に市民のみなさんに彼の業績や人となりを知っていただき、全国にも発信していきたいと思えます。

**山本** 森家は美濃(今の岐阜県)の豪族で、信長の武將として大きな力を持っていました。忠政の兄である蘭丸、坊丸、力丸の3兄弟が信長の小姓として働き本能寺で戦死するわけですが、これは有力な家来の子どもを小姓にして自分の考えを教え、将来の幹部候補生にするためでした。もし信長が天下を統一していたら、この3人は大名に取り立てられていて、各地で有力な藩を作っていたと思います。

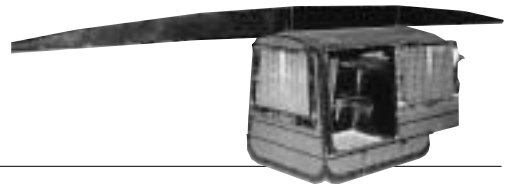
「本能寺の変」の後、彼らの兄である長可が、森家の総領として秀吉のもとで大きな働きをします。しかし、残念なことに秀吉と家康が戦った「小牧・長久手の戦い」で戦死してしまいます。それで森家をまとめる人間がいなくなり、残ったのはまだ幼い忠政でした。でも、信長や秀吉に仕えて戦死したわけですから、主君にとつては大きな功績をあげた家ということ、忠政は成長すれば取り立ててもらわうべき存在でした。

その後の家康時代も扱いは同じで、美作一國18万6、500石という大きな領地をもらいます。そして城下町を建設し、いろんな業績をあげるわけです。

国持ち大名は全国に20ぐらいいしかなく、もつと小さい国持ち大名もいますから、森家は徳川御三家を除きベスト20に入る大名家です。



木造森忠政公座像 (本源寺蔵)



した。当然地位も尊重されていて、朝廷からもらう官位もトップクラスの中將でした。

ただ、不幸なことに後継ぎが突然亡くなったりしたので、元禄時代には断絶します。そういう不幸がなければ、池田家や毛利家に匹敵するような家だっただろうと思います。

松平家時代の津山藩

**山本** 森家の後に入った津山松平家は、越前(今の福井県)松平家の嫡流になります。越前松平家は家康の次男の秀康に始まる家で、将軍家は三男秀忠の家ですから、この松平家は将軍家よりも血筋が上なんです。

2代将軍秀忠にとつては、秀康は自分の兄であるということ、丁重にもてなします。当時の史料では「制外の家」として、秀康の家には幕府の

命令は及ばないという家柄でした。

その秀康の息子が忠直で、67万石の大大名でした。しかし、精神的な病気で江戸に参勤しなくなり、国元で家臣を切つたりしたので、幕府により豊後(今の大分県)に流されます。本来なら、忠直の子どもが越前家を継ぐべきですが、弟の忠昌が継いでしまっています。忠直の子どもの光長は、父親は流され幼少であったため、越後(今の新潟県)高田に移され26万石を領します。ですから、石高は越前家の方が上ですが、光長の家は越前家の兄の系統だということ、幕府から重視されます。

津山藩の領国のおもな変遷

森藩時代(石高18万6,500石、94年間)  
現在の津山市・苫田郡・久米郡・勝田郡・英田郡・真庭郡・御津郡の一部(旧福渡町)・兵庫県佐用郡の一部(旧石井村など)

松平藩時代1(石高10万石、28年間)  
現在の津山市・苫田郡・真庭郡の大半(旭川東岸地域と西岸地域の北半分)

松平藩時代2(石高5万石、92年間)  
現在の津山市・苫田郡の一部

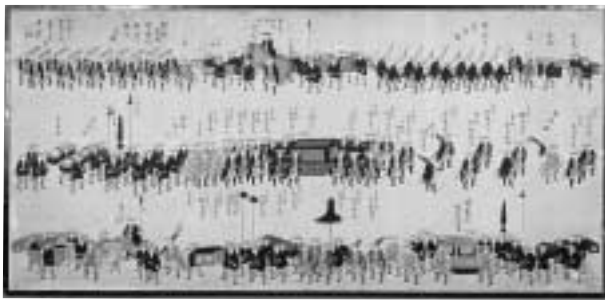
松平藩時代3(石高10万石、53年間)  
現在の津山市・苫田郡・真庭郡の一部・勝田郡の一部・久米郡の一部・英田郡の一部や香川県小豆島などが入ることもあった

しかし、3代將軍家光のころにお家騒動が起こって、光長の高田藩は取り潰しになってしまいます。取り潰しにはなりませんが、越前家の嫡流の家を埋もれさせるわけにはいかないのです。しかるべきときに取り立てようと思っていたところ、たまたま美作一國を領する森家の跡継ぎがなくなりません。

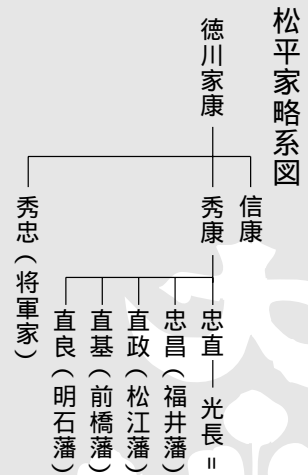
そこで幕府は森家を滅知転封させ、空いた津山藩に光長の養子・宣富を据え、格式の高い家を残そうとしました。そのときもらったのが10万石で、国持ち大名に近い格式でした。

ただ、のちに5万石になりたりするので経済的には弱い藩になります。血筋のよさがありますから、江戸の境界の中では、5万石にしては信じられないくらい高い家柄の人と付き合っています。

津山の松平家としては、10万石あるいは越前家の嫡流としてふさわしい石高が欲しいと思っていたので、江戸後期に11代將軍家斉の子どもを養子に迎え、10万石に復帰しました。津山の博物館に参勤行列図がありますが、あれは10万石に復帰したときの行列を再現したものです。



津山藩主松平齊孝津山入国図(部分・津山郷土博物館蔵)



数字は津山藩歴代藩主、  
= は養子を示す

越前家の各家は越前松平家が本家を称していて、松江・前橋・明石と全国に進出しています。そのなかで、津山松平家は石高としては3番目ですが、血筋では嫡流というところで重きをなしている家でした。

**津山藩の藩政に関する史料と政治体制**

**山本** 津山藩の史料は非常に膨大で、全国的に見ても有数の藩政史料です。藩政史料とは、藩でつけていた日記や帳簿ですが、こういつた日記が津山ほど残っている藩はあまりありません。藩政機構が分かる日記としては津山藩の帳簿は全国で1・2を争うような史料です。

広報つやまに「津山学ことはじめ」や「津山城百聞録」が連載されていますが、あれはおもしろい史料が引用されており、非常によく調べてい

ると感じます。また、地域住民はどのように治められていたかというところ、中央の津山藩から郡奉行を派遣して、いくつかの村を治めています。1つの村を直接藩が治めるのではなく、地域のまとまりで治めるのです。そうなる、当然そこにまちができて商人も集まり、地域社会の小さな中心ができます。それを統合したのが津山藩ということ。

**これからの津山のまちづくり**

**市長** 私たちは今、森氏4代松平氏9代の歴史や文化遺産を享受していますが、400年を機会にこれを文化振興、観光資源に活用し、再認識することでこれからの地域づくりを考えていかななくてはなりません。

今、市町村合併に取り組んでいますが、もともと県北1市5郡は津山藩です。そういう歴史上の絆も大切にして、おたがいが連携しながら発展していかなければなりません。潤いのある、落ち着いたまちなみを大切にしながら人間同士の絆を再構築し、これからのまちづくりのよい礎の年

にしたいと思います。

**山本** 津山城跡に備中櫓もでき、20年計画で整備していくことで、津山城跡や城東地区のまちなみなどの歴史的資源をさらに活用して、落ち着いたまちにしたいですね。また、博物館に残っている史料は非常に内容が濃く、継続して調べていけばいろんなことが分かってきます。ぜひ史料を活用できるように、博物館の調査機構を充実させていただければと思います。

あれだけ貴重な史料を持っている津山ですから、研究を進めていく人材を集めて振興していけば、城下町のまちづくりに役立つこともあると思いますし、文化的な面から津山を全国に発信できるのではないかと思います。

**市長** 貴重な意見をありがとうございます。築城400年の開幕まであとわずかとなりました。これから津山市の発展のために、お力添えをお願いします。

**山本** こちらこそ、よろしく申し上げます。

